

6年

授業者 伊藤 健太郎

# 「暮らしの中の政治～身近な暮らしと政治～」

児童 6年2組 男子16名

女子14名

## 1. 円山動物園で、ゾウを飼育することの是非を 考えることから、自分たちの生活と政治が密 接に結び付いていることがわかる学習

現在、円山動物園にはゾウはいない。そこで札幌市では、今年、市民に「円山動物園でゾウを飼うこと」についての意見を募集していた。（「広報さっぽろ」2012年5月号等参照。）賛成・どちらかという賛成の方が多いため、反対・どちらかという反対、という声も多い。また、ゾウを飼育するには、国際条約による規制や費用面など、クリアすべき課題も多い。そんな中、さらに、子ども（小学校5年生～高校3年生）にも意見を求めており、この取組を中心に授業を構成する。

最終的には、大人が決めてしまうことではあるが、子どもなりに考えて判断することができる事象である。自分の意見も求められていることを知ること、政治は大人だけのものではなく、自分の生活と密接に結び付いていることに気付くことができる学習としていきたい。

## 2. ともに響き合う社会科の授業づくり

視点1：身近な社会事象から、多面的な見方や考え方をしていける教材化

政治は、子どもにとって理解しづらく、なじみが薄い。そこで、児童会館の建設、子どもの権利条例、除雪、学校の備品など、子どもにとって身近なものを取り上げて学習を進めていく。

また、本時では、子どもを対象に、ゾウの飼育に関する意見募集を行っている取組の意図を考えることを通して、子どもの意見も尊重されていること、自分自身も一市民として大切な役割を担っていることにも気付かせていきたい。

視点2：コミュニケーションに価値を持たせる教師のかかわり

政治に関する用語は、難解なものが多い。辞書などで調べるだけでなく、友達と「こういうことだよ。」といった確かめをするだけでも、理解が進む。また、備品調べにおいても、友達と一緒に探すことで、「こんなものも、税金でまかなわ

れているんだ。」という気付きにつながりやすい。さらに本時の学習においては、「今・子ども」と「将来・大人」という2つの視点で思考できるように発言を取り上げるとともに、板書で視覚的にわかりやすく価値付けていく。そうすることで、自分になかった見方・考え方に気付くことができるようになると思った。

## 3. 単元の目標

- 日常生活における政治の働きに、関心をもち、意欲的に調べている。（関心・意欲・態度）
- 国民主権と関連づけて、地方公共団体や国の政治の働きについて考え、適切に判断している。（思考・判断・表現）
- 国民の生活と地方公共団体や国の政治とのかかわりを調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして調べている。（技能）
- 国民生活には、地方公共団体や国の政治の働きが反映していることが分かっている。（知識・理解）

## 4. 単元構成（6時間扱い、本時6／6）

### ①政治って、何だろう？

：私たちが暮らしやすくなるように…

### ②住民の願い＜児童会館を！＞は、どのように実現？

：住民・市役所・議会の3つが力を合わせて…協力が重要！

### ③制度やしくみにはどんなものが？

：子ども＜子どもの権利＞だけでなく、お年寄りや体の不自由な人のためにも…。

### ④願いと政治のつながりは？

：選挙で選ばれた人が、住民の願いを受けて、議決していった…。

### ⑤費用はどこから？

：様々な形で、税金として納められて…円山動物園でも使われているね。

### ⑥子どもにも意見を求めるのは？＜本時＞

：私たち子どもも、市民の一人！参加…。

## 5. 本時の学習


### (1) 本時の目標

札幌市が、子どもの意見を取り入れたまちづくりを進めていることを通して、子どもも市民としてまちづくりに参加する権利があることや、責任をもってまちづくりに参加することが大切であることを考えることができる。(思考・判断・表現)

### (2) 本時の展開

| 学習活動と予想される子どもの反応・考え方  | 教師の具体的な手立て   |
|---|--|
| <p>(前時まで) 住民の願いが実現されるまでの仕組みを、学んでいる。また、ゾウの飼育という具体的な事例を通して、札幌市が住民の意見を反映して政治を行おうとしていることがわかっている。</p> <p>大人が、もうすでに意見を出しているよ。結果もまとめられていたね。それでも、さらに子どもたちからも意見を？</p> <p>子どもの提案・意見募集とあるよ。</p> <p>ゾウを飼うことについてだね。</p> <p>札幌市は、どうして子どもの意見を募集しているのだろう？</p> <p><b>子どもならではの</b><br/>○子どもは、見たいと思っているはず。子どもの意見を尊重しよう。<br/>○子どもも市民だ。子どもの<b>権利</b>条例にも。権利があるはず。<br/><b>今・現在</b></p> <p><b>権利と責任</b></p> <p><b>次の大人として</b><br/>○札幌市を支える大人として、自覚をもってほしい。<br/>○経費は、<u>自分たちが納める税金</u>だから、市民みんなが考えるべき。<br/><b>将来・未来</b></p> <p>誰かが考えてくれる、やってくれる、じゃだめなんだ。自分で考えることが大切なんだね。これが、市民の協力だ！</p> <p>自分の意見を考えて、伝えよう。／地域についての考えも募集されているよ。考えてみよう。</p> | <p>○今年の夏に行われたアンケート結果（前時に取り上げ済み）と、学校に送られてきた「募集チラシ」から、「子どもにも意見を募集するのはなぜか。」という問題意識を醸成する。</p> <p>○「今・子ども」と「未来・大人」という視点・立場を明確にしなが、発言を板書に価値付けていく。<br/>…子どもの権利条例の条文で確かめることで、権利を有していることを理解し、結び付ける。</p> <p>○ゾウの飼育について、自分なりの考えを、実際のはがきに書く活動を入れる。</p> |

### (3) 本時の板書計画

|                                |   |  |
|--------------------------------|---|--|
| <p>大人へのアンケート調査。賛成・反対、どちらも。</p> | <p>札幌市は、どうして子どもの意見を募集しているのだろう？</p> <p>○動物園に行きたくなる。→家族連れが増えて、入園者も増える。<br/>○子どもも市民だ。子どもの<b>権利</b>条例にも…</p> <p><b>参加する権利</b></p> <p>○札幌市を支える大人になるからだ。<br/>○ゾウの経費は、<u>自分たちが納める税金</u>だと考えてほしい。</p> <p>誰かが考えてくれる、やってくれる、じゃだめなんだ。自分で考えることが大切なんだね。これが、市民の協力だ！</p> |  <p>実際に、自分の考えを書いてみよう。</p> |
|--------------------------------|---|--|

### (4) 評価規準

札幌市が、子どもの意見を取り入れたまちづくりを進めていることを通して、子どもも市民としてまちづくりに参加する権利があることや、責任をもってまちづくりに参加することが大切であることを考えることができたか。(ノート・発言)